

# 教職ゼミにおける模擬授業の取り組み

## —教育実習における学習指導力の向上をめざして—

矢田貞行\*

### はじめに

教員の指導力の1つに学習指導力がある。学習指導力とは、授業力とも言われ、大学の教職課程において教員の基礎的資質能力として求められる「教科等の指導力に関する事項」である。教員免許状の取得を目指す学生が教師としての知識のみならず、子どもに理解させる力など、教育者としての資質能力を備えているかどうかを最終判断するために、文部科学省が平成22年度から導入を決めた「教職実践演習」においても、指導力に関して次のように述べられている。

- ・模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等を身に付けているか確認する。
- ・教科書にある題材や単元等に応じた教材研究の実施や、教材・教具、学習形態、指導と評価等を工夫した学習指導案の作成を通じて、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けているか確認する。

また、4年次の教育実習に先立って設定されている「教育実習事前事後指導」の授業においても、模擬授業の実施が強く求められている。勿論、本学部でもこれらの授業や教職関連科目等においても、教職履修学生を対象に模擬授業の実施が行われている。しかし、例年学生数が多く（80名～100名程度）、1人で教材研究を行い、学習指導案を立てて模擬授業を実施することは不可能に近く、いくつかのグループに学生を分け、その中でグループワークを中心にして授業を分担しているのが実情である。こうした中で、本学部の教職担当者の間でも少人数制に基づく模擬授業の実施・充実を求める声も少なくない。

そこで本ゼミでは、10～15名の比較的少人数である3年次春学期からのスポーツ健康科学部「専門演習Ⅰ」（演習科目）において、平成25年度春学期（当時は人間健康学部）から模擬授業の実施に取り組むことにした。（また、平成26年度からは、2年次の「専門基礎演習Ⅰ」においても模擬授業を始めた。なお、本報告においては、3年次のみを取り扱うことにする。）

### 1. シラバス

本学部では、3年次のゼミ選択においては、学生に予めゼミの内容についてのシラバス（表1）を配布し、それに基づいて希望学生が担当教員と面談し、ゼミの決定を行っている。

本ゼミの主たる目的が模擬授業を通して、教員としての基礎的基本的な学習指導力を身に付けることねらいとしているため、当然その趣旨に沿った学生が集まってくる。無論、2年次の春・秋学期にも在籍して、「一度模擬授業を経験し、得る所が多かった」「他の学生の模擬授業を見ることで学びになった」「模擬授業の経験を重ねることで、教育実習までに自信を付けたい」などの理由で、引き続き3年

---

\*東海学園大学スポーツ健康科学部教授

次でも希望する学生も少なくない。本年度（平成27年）の場合、13名のゼミ生のうち、こうしたリピーターは7名に上っている。

また、昨年度は教員採用試験対策として学部独自に設定している「教職演習Ⅲ」（2年次秋学期）を担当する際、ゼミの3年生の模擬授業を合同でやったこともあり、「先輩の様子を見て刺激を受けた」学生も少なくなかった。このようなことから、一般にゼミ生の教職に対する意欲や意識も高く、教職を第一志望に掲げる者が多い。

表1.平成27年度春学期 専門演習Ⅰシラバス（矢田ゼミ）

テーマ：保健体育教員としての学習指導力の基礎を培う
<b>【1.授業の目的】</b> 教員として求められる基礎的な資質能力の1つに、学習指導力がある。本授業では、教材研究、学習指導案作成、模擬授業を行うことを通して、学習指導力の基礎を培う。なお、Ⅰでは中学校、高校の保健の模擬授業を行う。
<b>【2.到達目標】</b> ○教育学・教科教育学的知見に基づく基礎的知識・技能を修得し、活用することができる。 ○明確な教師像を持ち、基礎的知識・技能を駆使して教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業を行うことができる。
<b>【3.授業計画】</b> 1 週 授業の進め方 2 週 学習指導案の立て方 3～6 週 教材研究・学習指導案作成＋個別指導①～④ 7～13 週 模擬授業①～⑦ 14～15 週 卒論指導
<b>【4.授業方法】</b> 講義と実技（模擬授業）ならびに個別指導を中心に行う。
<b>【5.事前準備学習】</b> 「学習指導要領中学校保健体育」「学習指導要領高校保健」を熟読しておく。
<b>【6.教科書】</b> 中学校保健体育指導書・高校保健指導書、教科書（大修館出版）等を使用する。
<b>【7.参考書】</b> 開講時に指定する。
<b>【8.評価の方法】</b> 学習指導案ならびに模擬授業に基づき、総合的に評価する。

## 2.教材研究、学習指導案の作成

専門演習Ⅰの授業においては、まず最初に中学校・高校の保健の学習指導案の立て方について講義を行うことにしている。3年次の学生は、まだ教職に関する科目の保健体育科教育法のうち、授業構成等に関する講義をほとんど受講していないので、基礎的知識・技能については欠いている。しかし、中学校や高校の保健の授業は、すでに何度も聞いているので、内容に関する事項については結構理解ができている。無論、「導入・展開・まとめ」という三段論法の授業法や授業のねらい、テーマ設定の理由、単元といった事項については、十分熟知していない。

教材研究についても、すでに1、2年生の段階で保健体育の教科に関する科目をいくつか受講しているものの、それを理解し、教材としてどのように生徒に伝えるかという、学習指導案作成の段階になると、皆目分からない学生も多い。

1回だけの講義では、到底理解することが不可能なため、教材研究・学習指導案作成と並行する形で、学生の個別指導を1人20～30分程度で行うことにしている。

また、本授業では、教材研究や学習指導案の作成に時間を割くよりはむしろ、とにかく45分間の模擬授業を1度やってみることに主眼を置いている。したがって、最初から教科書のみを与えて、それだけを基に教材研究・指導案作成を行わせるには時間的余裕もないので、学生には予め朱書きの教師用指導書や学習指導案例を配布し、それらを参考にしながら、各自教材研究・指導案作成を行うよう指示している。

さらに、模擬授業実施の1週間前に担当学生と再度、面談の機会を持つことにしている。その時までには学習指導案の完成と板書計画、ワークシートも用意させるようにしている。なお、フラッシュカードや他の関連資料等を使用する場合は、それを持参することも求めている。その際、学生は授業の概要を説明し、授業の展開に従ってどのように説明をし、板書の仕方やフラッシュカード使用時期、発問の仕方、グループワークのやり方、ワークシートの活用等について、打ち合わせることになっている。

今日、高校以下の学校においては、おおよそ教師が教科書を読み、生徒が説明を聞いて理解をするという類のものでない。生徒が中心となって教師と共に授業を創り、生徒の持つ様々な能力を育成していくのが本来の授業の在り方である。したがって、常に教師は生徒の学習状況を把握し、適宜机間指導を行うよう、助言や提案を行っている。場合によっては、学習指導案の修正、使用機器の変更等もあり得る。

また、先述のように平成26年度から2年次の専門基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいても模擬授業を始めたため、すでに模擬授業を1度経験している学生も少なくない。2度目の経験者と3年生になって初めて模擬授業を体験する初心者では差が大きいため、進度に応じて指導の仕方も変えている。さらに、先に経験者の授業を優先することで、初心者が学びを深め、授業に資するようにしている。

【資料1 - 学生の学習指導案（略案）の一例】

日 時：平成27年〇月〇日

学 年：〇〇中学校1年生

指導者：〇〇〇〇

単元名：生活習慣病とその予防

本時の目標：

- ・生活習慣によって引き起こされる病気に関心を持ち、学習に進んで取り組む。（関心・意欲・態度）
- ・自らの生活習慣を見直し、生活の質を高めるための改善策や予防策を考えられるようになる。（思考・判断）
- ・健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、休養、睡眠の調和の取れた生活が必要であることを理解する。（知識・理解）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入	日頃の生活習慣について	<b>〈発問1〉</b> 生活習慣についてふりかえる。チェックシートを使って、当てはまるものに○を付ける。 ○の数によって、その後の寿命が大きく関係することを話す。 生活習慣が、身体にどのような影響を与えるのか学ばせる。	自分自身の生活をふりかえさせる。 周囲の生徒と話し合う時間を設ける。
展 開	生活習慣によって起こる疾病  日本人の死亡原因  生活習慣病の怖さ  生活習慣病の成り立ち	<b>〈説明〉</b> 日常の乱れた生活習慣の積み重ねによって引き起こされる病気が生活習慣病であることを説明する。 <b>〈説明〉</b> ・癌 ・心臓病 ・脳卒中 ・糖尿病 ・歯周病 ・肥満 <b>〈発問2〉</b> 生活習慣病のうち、日本人に多い上位3つの死亡原因について尋ねる。 <b>〈説明〉</b> 日本人の3分の2が生活習慣病で亡くなっていることを示す。 <b>〈発問3〉</b> 生活習慣病は、治る病気かどうかについて尋ねる。 <b>〈説明〉</b> 教科書に基づいて、生活習慣病の怖さについて説明する。 <b>〈説明〉</b> 生活習慣病は、もともと備わっている要因に、不健康な生活習慣（塩分の過剰摂取、運動不足）が加わり、危険な兆候が起こる。それを放置しておくとなら生活習慣病になる。 <b>〈発問4〉</b> 事例を3つ提示し、生活習慣をどのように改善したら、生活習慣病を防ぐことが出来るのか尋ねる。 ①毎晩夜遅くまでゲームや携帯電話を使用し、寝る時間が遅くなって朝起きられず、朝食を摂らないで登校する。 ②食事はファーストフードを好み、肉類などを多く食べる。 ③休日は家でだらだらと過ごすことが多く、移動手段はいつも車で送ってもらう。	教科書 p.125 を示しながら説明する。  患部の写真を使用する。  グループで議論させ、発表させる。  教科書の図を参考にする。  グループで解決策を話し合わせ、発表させる。
ま と め		生活習慣病が罹らないようにするためには、若い時期からの生活習慣（食事、運動、休養、運動のバランス）に係っており、規則正しい生活が重要なことを学習させる。	ワークをさせ、知識の習得を図る。

## 【資料2－授業で使ったワークシートの例】

## ワークシート

## 生活習慣病とその予防

◎生活習慣についてふりかえてみよう（該当するものに○を付ける。複数回答可）

1. 朝食を毎日食べる（ ）
2. 間食をあまり摂らない（ ）
3. 定期的に運動する（ ）
4. 睡眠を毎日7～8時間取る（ ）
5. 毎晩寝る前にブラッシングする（ ）
6. どちらかと言えばアウトドア派である（ ）
7. イライラした時、気分転換を図る（ ）

○の数（ ）個

## ◎生活習慣病について

（ ）：主に食事、運動、睡眠、喫煙、飲酒、休養などの普段の生活習慣がその発病や進行に係わる病気。日本人の三大死因：1位（ ）、2位（ ）、3位（ ）

全ての病気の原因は、（ ）に係わる

## ◎考えてみよう

下記の3つの生活習慣は、そのまま続けていると、生活習慣病になる危険があります。どのように改善したら、生活習慣病を防ぐことが出来るでしょうか。

① 毎晩夜遅くまでゲームや携帯電話を使用し、寝る時間が遅くなって朝起きられず、朝食を摂らないで登校する。

(→ )

② 食事はファーストフードを好み、肉類などを多く食べる。

(→ )

③ 休日は家でだらだらと過ごすことが多く、移動手段はいつも車で送ってもらう。

(→ )

## ◎練習問題

1. 主に食事、運動、睡眠、喫煙、飲酒、休養などの普段の生活習慣が病気の発病や進行に係る病気を（ ）と言う。

2. これらの病気は、その起こり方や進行具合に（ ）が大きく関係している。

3. 生活習慣病は、中高年の人に多く見られる病気であるが、それは（ ）から始まっている。

4. 日本人の三大死因は、（ ）（ ）（ ）である。

5. 癌の病名は、正式には（ ）と言う。

6. 生活習慣病は、（ ）がないままに進行する。

7. 生活習慣病を防ぐ基本は、（ ）を続けることである。

◎生活習慣病に罹らないために、これから気を付けたいことを書きなさい。



### 3. 模擬授業の実施

1コマ45分を目途にして、2名の学生が模擬授業を行うことにしている。授業は、同じゼミ内で行うと緊張感が乏しく、内輪の会になってしまう危険があるので、他学年と合同で行うことにしている。時間割編成上、授業の重複等で模擬授業の日程調整に毎年苦勞するが、今年度は1年次の基礎演習Ⅰ（水1限）と2年次の専門基礎演習Ⅰ（火3限）を数回合同授業として、授業に支障のない限り、ゼミ3年生に参加するよう求めた。

なお、通常の専門演習Ⅰ（火5限）は日程通り開講し、教材研究・学習指導案作成、個別指導等を行った。

また、授業に際しては、授業者を除く全員に簡単なコメント（「良い点」「改善すべき点」）を記名式で記入することを求めた。（表2）さらに、授業者には、教育実習の予備実習という意味も込めてスーツ着用とした。また、希望者にはVTRにて授業を撮影した。

【資料2－模擬授業の様子】

①



②



③



④



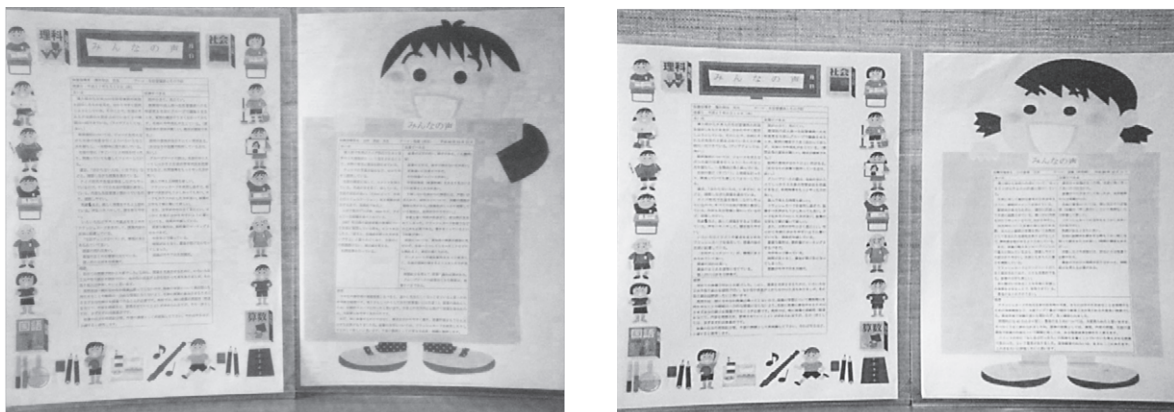
表2.模擬授業のコメント

授業日 平成〇〇年 〇月〇〇日 テーマ：〇〇〇〇〇〇〇〇 保健指導者 〇〇〇〇	
良い点	改善すべき点
学籍番号 S 1 1 4◇◇◇◇ 氏名〇〇〇〇	

#### 4.模擬授業のふりかえり

模擬授業のふりかえりとして、学生から集めたコメントを翌週『みんなの声』として編集し、配布している。ここでは、教員の感想も加えている。

【資料3 - 『みんなの声』】



#### おわりに

今年度からは、前述のように模擬授業を希望者にはVTR撮影を行い、DVDに収録してふりかえりに供するよう配慮した。結果的にゼミ生全員が撮影を希望したため、すべての模擬授業を録画することになった。学生にはそれを模擬授業終了後のふりかえりとして利用するため、1部ずつDVDを配布した。

最後に、レポートとして『模擬授業を終えて』と題して、DVDを見た上での感想を書き、提出してもらうことにした。学生には対しては、授業はやりっぱなしに終わらないように、PDCAサイクル

（「PLAN－指導案作成、DO－模擬授業実施、CHECK－振り返り（反省）、ACTION－次回に向けての改善」）に基づき、次回へのより良いステップアップにつながるよう指導している。また、その中での「気づき」が大切であることは言うまでもない。今回は、DVDで模擬授業を撮影した成果もあり、後でレポートを読んでもみると、さまざまな斬新な気づきがあった。以下、『模擬授業を終えて』と題する3年生のレポートを掲載しておきたい。

『模擬授業を終えて』テーマ：「快適で能率の良い環境」（中学校）

（3年生）（模擬授業初回目）①

授業のために教材研究を行い、指導案やワークシートの作成、すべてにおいて初めてでした。初めての模擬授業で分からないことや不安な部分が多々ありましたが、無事に終わりほっとしています。少し難しい単元であったため、指導案作成が特に苦戦しました。教員をめざす者として、とても良い経験ができたと思います。

『みんなの声』を参考にすると、自分だけでは気づけなかった所もたくさん見つけたり反省点が多々あると感じました。

- ① 考えさせる時間が短く、進めるのが早かった。  
→もう少し生徒の学習状況を確認しながら、進めるべきだった。
- ② 導入部で、いきなり教科書を読ませて説明不足だ。  
→今日はどのような授業を行うのか、また生徒が身近に感じる質問や話題を投げ掛けるべきだった。
- ③ 声が小さい。  
→緊張もあったが、教室の後ろにいる生徒にまできちんと届くように話さなければならなかった。また、自信を持つことが大切だと感じた。
- ④ 板書に色を使う。  
→板書とフラッシュカードで授業を進めたが、白ベースばかりのものを使用してしまったので、色付きのカードを使ってもっと見やすくすべきだった。
- ⑤（授業で使用した）湿度計付き時計をみんなに見えるよう、生徒の方に向けた方が良い。  
→一部の生徒の方だけに時計を向けてしまったので、生徒全員を巻き込んで展開すべきだった。

以上のような反省点が見つけたり、次回までに改善しなければならないと感じました。

逆に良い点では、フラッシュカードの使用（生徒の回答を記入させるためのもの）により、生徒が授業に参加できるような工夫が好評でした。また、板書の文字の大きさやワークシートのまとめ方などの流れがスムーズであったという意見もあり、今後につながると感じました。単元が少し難しかったため、生徒に興味関心を抱かせるような工夫を練り、それがうまくいった部分が良かったかなと感じました。

念入りの準備と教材研究がとても大切だと感じたので、次回行う際にもきちんと準備をして授業を進めていけるようにしたいと思います。今回の経験を活かし、より一層のスキルアップをめざしていきたいです。

『模擬授業を終えて』テーマ：「高齢者のための社会的取り組み」（高校）

（3年生）（模擬授業初回目）②

今回、初めて模擬授業を行い、1つの授業を完成させるということの大変さを痛感した。先生は、「最初なのだから、当たって砕けろ」と言っていたが、2日前ぐらいから緊張で良く眠れなかった。

指導案については、先生に印刷して頂いた単元の指導案例に沿って作成した。生徒自身に内容について考えさせるために、グループワークを多く取り入れるのが良い、というアドバイスを事前に



頂いたので、それも参考に作成していった。フラッシュカードについては、これまでに見てきた模擬授業で使われたものを参考に、カードの大きさ、文字の太さ、量に気を付けて作成した。ワークシートを授業に沿った穴埋めのものにする事で、生徒に暇を与えず、飽きさせない工夫も行った。

実際の授業では、まず黒板が高くて単元名を書くのに手間取ってしまい、最初から「しまった！」という思いが強かった。私は、背が低いので、高い所に文字を書く場合、何らかの工夫が必要だということが分かった。板書計画はしっかりとしていたので、スムーズにできたと思う。しかし、授業全体を見ると、教材研究が足りなくて生徒にうまく説明できなかつたり、自分の頭に内容がしっかり入っておらず、ぐたぐたとなってしまう部分が多くあり、伝えたいことの半分ぐらいしか言えなかった気がする。自分の模擬授業のDVDを見て、表情が硬くて生徒の方を全然見れていなかったのが、一番気になった所である。また、授業の概略を書いた手書きのメモを見てばかりで言いたい内容がまとまっておらず、その場で話が途切れてしまっている所も改善しなくてはならない所だった。

『みんなの声』を読んで、やはり板書とワークシートに関しては、見やすかった、授業を受けやすかった、との意見をもらえた。しかし、私の態度に関しては、下ばかり見ている、表情が固くて暗い、などの意見がとても多かったと感じた。

今回の模擬授業のまとめとして、何もかもが初めてで、只々授業をやり切るという思いしかなく、生徒が理解しやすい工夫をもっと考えるべきだと思った。秋学期にももう一度模擬授業をさせて頂くチャンスがあるので、みんなからももらった意見と自分自身が感じたことを無駄にせず、しっかり取り組みたい。今回の模擬授業で学んだ『授業を行う感覚』などを生かしたいと思う。専門演習で模擬授業ができるというのは、本当に有難いことである。やはり、経験しているのとしていないのでは、大きな差があると感じた。貴重な体験をさせて頂き、感謝したい。

### 『模擬授業を終えて』 テーマ：「薬物乱用と健康」（中学校）

（3年生）（模擬授業2回目）③

今回の模擬授業は2回目ということで、前回よりもより良い授業を行えるように意識しました。「薬物乱用と健康」のテーマで授業を行いました。PDCAサイクルに従って、ふりかえりを行いたいと思います。

まずPlanの指導案作りの所では、みんなが興味を持てるような導入とは何だろうと考えた結果、薬物で逮捕された芸能人を取り上げました。しかし、ふりかえって見ると、その芸能人を知らない生徒がいたりして、あまりピンと来た感じがしなかったです。導入にしては軽過ぎ、今後はもっと薬物について考えさせるような展開への流れがつながるような工夫をすべきだと反省しました。展開は、前回よりも納得のいく内容であり、「分かりやすく理解できた」との周りからの評価も良かったです。まとめの所は薬物についての怖しさを強調して伝えられなかったのが、残念でした。法律で薬物が禁止されている点について軽く触れただけだったので、もう少し時間をかけて板書もすると良かったかなと思いました。板書計画については、要点をしっかり押さえ、フラッシュカードを大事な語句で使い、バランス良く板書を考えることができました。周りからも見やすいと言ってもらえたので、とても自信になりました。資料については、内容は分かりやすかったが、量が多いと指摘を受けました。要点を絞り簡潔にまとめられた資料作りを心掛けたいと感じました。

次にDoの模擬授業の実施については、前回よりも机間指導での助言もでき、生徒への内容確認や配慮も怠らさず行えたと思います。しかし、周りの意見からは、「生徒を見ていない」「俯き加減」といった意見が数多くありました。自分の調べてきたことが多過ぎて、説明する際に取りこぼしなくしなくてはならない、という意識から自分の資料ばかり見ている、生徒全体に目を配れていませんでした。これは、授業を行う上でとても重要なことであり、生徒全体を巻き込んで生徒と共に授業を創り上げるためには、教師の表情はとても大切です。そのため、ある程度自分の言葉で話せるよう事前に準備し、生徒の顔をしっかりと見れるように余裕を持って授業を行えるようにしたいです。また、教科書を生徒に読ませる際に、1人の読む量が多過ぎたという意見も多数見られます。

Checkは、先生に撮って頂いたDVD等によるふりかえりを行いました。『みんなの声』の書かれた資料と照らし合わせながら見ると、上記に挙げた反省点が良く分かりました。特に俯き加減の所は、授業が終了するまで俯いていたので、自分が生徒側だったら、嫌だなと反省しました。板書も下の方に書いてしまった箇所もあり、とても見づらいのが分かりました。また、説明する際に、大きい声で話している所があるかと思えば、小声の所もあり、声のトーンも気になりました。大きな声で生徒が聞き取りやすいよう、はっきりした口調で説明できるよう、意識する必要があると思いました。前回よりは授業の流れは良く、その点では自信になりました。説明や発問、グループワーク、まとめなどはうまく行えたと感じています。DVDでは、自分が実際にやって思った反省点だけではなく、自分が行った授業を見て反省することで、見えない部分も見えて、さらに反省点が新たに発見でき、とても良いふりかえりになりました。

最後にActionについては、次回に向けての課題として、生徒全体を巻き込み、生と共に授業を創り上げるような授業を行えるようにしたいです。表情や授業への興味関心を一層生徒に持たせる工夫や、授業をさらにより良いものとするための働きかけなどを意識しながら、授業作りを行いたいです。指導案作りや板書計画、資料作成もとても重要ですが、教師としての立ち振る舞い、生徒が充実した授業を受けられるような授業の雰囲気作りもしっかり考えて次回もがんばりたいです。

### 『模擬授業を終えて』 テーマ：「生活習慣病と健康」（中学校）

（3年生）（模擬授業2回目）④

今回で2度目の模擬授業でした。前回の『みんなの声』を見て、声が小さいと書かれることが多かったので、今回は声量と表情に気を付けて授業を行うことを意識しました。DVDを改めて見てみると、前回よりも声は出ていたと思いますが、所々声が小さくなることがありました。特に、言葉がうまく出てこない時には、声が小さくなっていました。また、言葉をまとめ切れていないことと、しっかり教材研究をしたと思っていても、できていない部分があると思いました。教材研究をすることは勿論ですが、何度も人前に立って話すことなどを経験することによって、適切な声量が身に付いてくると考えます。人前に立って話す機会を作るようにし、誰でも聞き取りやすい話し方を教育実習までに学びたいです。

授業内容では、導入部分から展開部分へのつながりが悪かったことと、内容が多く、まとまりがなかったと思いました。チェックシートからのつながりを作ることができれば、もう少しスムーズだったかも知れません。内容が多く、時間配分がうまくできませんでした。対象が中学生だったため、生活習慣病がどのように起こるのか、また日ごろからどういった点に気を付けなければいけないのかという所を、詳しく授業する方が良かったと思いました。授業を行う内容も、対象によってどこを詳しく教えなければならぬかを考える必要もあると感じました。教師の一方的な説明授業にせず、生徒を巻き込んで授業をすることは大変だと痛感しました。前回と同様に寝てしまう生徒もいました。生徒が寝ないような興味を持てる授業をやるのが一番大切だと思います。しかし、寝てしまった生徒への声掛けの方が大切だと思ったので、放置するのではなく、1人1人に声を掛けるようにしました。寝てしまった生徒へのフォローをすることを今後も心掛けたいです。

『みんなの声』を見て、「本物の教師の授業を受けてみたい」「授業を受けて楽しかった」と書いてあり、うれしかったです。心掛けようとしていた、寝ている人への声掛けについても触れられており、意識して行った甲斐があったと思いました。その反面、指摘されたことは納得することが多く、気を付けないといけないと感じました。今回は、DVDなどを使って、模擬授業のふりかえりができて、良かったです。今回学んだことを次回の授業にも活かしていきたいです。

さらにまた、今回は模擬授業を受けた1年生にも同様のレポートを課し、生徒役からのコメントを受け取ることもできた。併せて、『模擬授業を受けて』と題する1年生のレポートを掲載しておきたい。

## 『模擬授業を受けて』（1年生）⑤

6月にゼミで先輩の模擬授業を受けた。最初は、「ゼミでどうしてこんなことをやるのだろうか。先輩の模擬授業を何で聞かなければならないのだろうか」と思った。けれども、自分が将来めざしている職業をもう一度自分の中で問い直してみると、やはり成りたいのは、保健体育の教師であった。保健体育の教師というのは、体育だけではなく、保健も教えなければならないのだ。そう考えが変わったら、先輩の模擬授業は、私の心の中でとても良い刺激になった。

もし、私が逆の立場で模擬授業をすることになったら、どのように教材や資料を作成するのか。フラッシュカードの使い方やグループでの話し合いのタイミングなどについても考えた。考えているだけでも難しいのに、前に立っていざ生徒に授業をするとなったら、とても緊張すると思った。そして、授業をするためには、前々からの準備が必要になってくる。生徒が予想外の質問をしてきた時も答えなければならないし、授業で使う資料の作成も大切な仕事になってくるのだ。

私が中学、高校で受けてきた保健の授業は、決して楽しいものではなかった。授業はあまり楽しくないけれど、保健の内容は自分の身体などに関係してくるととても大切な分野である。だからこそ、自分が保健を教える立場になったら、生徒が少しでも「分かりやすい」「楽しい」「おもしろい」と興味を持てる授業ができるように心掛けていきたいと改めて思った。

模擬授業を受けて強く刺激を受けたので、これを自分の今後に生かしていきたい。

## 『模擬授業を受けて』（1年生）⑥

今回、3年生の模擬授業を受けてみて、非常に良く考えられていて2年間でしっかりと学びを深めていけば、きちんとした授業展開にまで持っていけるということが分かった。しかし、授業を通して気になる所や思う所が多々あった。

私自身高校在学時に、先生側からの視線でものを言うために、模擬授業を一度行ったことがある。その時の授業展開は、とてもお粗末な内容だったが、自分にどんな考え方が足りないのかを理解することができた。今回、授業を受けてみて分かったことは、先生側がやりたいことの趣旨をうまく生徒側に伝わって来なかったということ、これが少し気になった。考えていることと言葉がうまくつながらずに、生徒側の時間が止まってしまった。

もう1つ気になったことは、視線だ。うまく生徒に目を向けられている人とそうでない人との差が大きかった。先生が生徒を見るということは、授業中にとっても大切な要素だと思うが、それよりもっと重要なのは、放課後や休み時間の時だ。生徒の細やかな変化に気づき、声を掛けることで、いじめを未然に防ぐことにもつながる。また、何より生徒に安心感を与えることができる。さらに、良く見るということは、小さな成長にも気づく。その成長を褒めることで、生徒は自己肯定感を高め、もっともっと努力しようとする。

今回3年生からたくさんのことを吸収しながら、参考にして今後の自分の成長につなげたい。